

参加したインターンシップについて教えてください

大学院1年の夏以降、志望度の高かった金融業界を中心に6社のインターンシップに参加しました。銀行ではクオオンツ、証券会社ではリスク管理やデリバティブプライシング、損害保険会社ではアクチュアリー、コンサルティングファームではリサーチなどの業務を体験することができました。いずれも1〜2週間のプログラムで、夏休みの大半はインターンシップに参加していました。

参加してどんなことを感じましたか？

参加前は、クオオンツやアクチュアリーの仕事そのもの、その分野で働く方に対して、強い憧れを抱いていました。ですが、インターンシップに参加したことで、「憧れ」の対象だったものが、プラスな面もマイナスな面も含めて仕事の実像を「理解」することができ、リアリティを持って考えられるようになった点が大きな収穫でした。また、プログラムを通じて社員



の方々と交流して個人の人物に触れることで、それまでは憧れの対象で遠い存在だった方々も同じ人間で、自分の努力の延長線上にあるのだと理解でき、良い意味で気負いがなくなりました。そのほかには、「アカデミック」では正確性を追求して研究に取り組みますが、「ビジネス」では効率やコストパフォーマンスも意識してバランスを取る必要があると感じました。とはいえ、ビジネスの現場において大学で学んでいたことが想像以上に活かせるということも分かり、インターンシップに

東京大学大学院 経済学研究科 経済理論学専攻 修士2年

緒方 良輔さん

参加したインターンシップ

国内大手銀行(クオオンツ)/損害保険会社(アクチュアリー)/戦略コンサルティングファーム など

Case

01

先輩体験談

実体験を通じて、“憧れ”を“現実”に

参加してから勉強にも一層力が入るようになりましたし、研究テーマも絞りやすくなりました。インターンシップに参加して就職活動に役立ったことは？

仕事の適性において自己理解が深まったことが大変役立ちました。リアリティを持って職種を理解することで、本当に自分に向く仕事、やりたい方向性を考える契機になりましたね。

私は当初、金融専門職のクオオンツやアクチュアリーを志望していましたが、インターンシップに参加して、様々な人とコミュニケーションを図る仕事をしたという自分の志向に気が付きました。クライアントと議論したり、プレゼンを行ったりするコンサルティングやアナリティクスの仕事があったいと考えるようになり、就職活動ではコンサルティングファームを中心に受験しました。

これからインターンシップや就職活動を控えている理系学生にアドバイスをお願いします

インターンシップに参加するのであれば、課題をただ終わらせる

ためにプログラムに取り組むのではなく、「何のためにその課題が出されているのか」、「どんな目的でこのプログラムが設定されたか」を理解しようと努力することで、その会社がどういう人を求めているのか、期待する人材像が分かってくる。求められるものと自分の適性を照らし合わせて考えられるようになるので、業界や職種、企業選びに活きてきますよ。

就職活動やインターンシップはダメもとても、とにかくチャレンジしてみることをおすすめします。私は外資系銀行のインターンは1社しか受けず、選考で落ちてしまったのですが、振り返ってみると他の外資系銀行も受けてみればよかったと思っています。金融やコンサル業界の仕事は理系にとって特にイメージが付きにくいので、先入観で判断せずに少しでも興味があれば、インターンシップで体験してみてください。実際に体験することで自分の適性が見え、将来の方向性が定まってくるはずです。

参加したインターンシップについて教えてください

精密機器メーカーの営業職インターンシップに参加しました。3日間のプログラムで、会社や製品の説明を受けてから1日半にわたる営業の業務体験に臨みました。6、7人のグループに分かれ、売上目標に向けてグループ全員で営業戦略の立案から顧客訪問など一連の営業業務に取り組み6チームで売上高を競いました。

実施企業の社員がお客様や上司役となり、競合会社もいる設定でしたので、真剣に戦略を話し合ったり、価格の交渉をしたりするなど、緊迫感がありました。

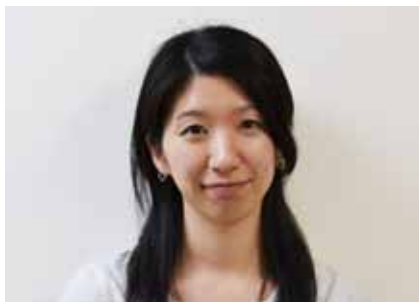
参加してどんなことを感じましたか？

参加する前、営業に向くのはフットワークが軽く、話し上手な人が良いと思っていました。しかし、仕事体験を通じて、お客様のニーズを引き出す力やお客様の反応に対応できる臨機応変さも求められることを知り、先入観は必ず

しも正しいわけではないと分かりました。

また、このインターンシップに参加することで、今まで意識していなかった自分の長所を二つ見つけられたのも収穫でした。一つは論理的に順序立てて説明できると、二つ目は情報を丁寧に整理できるといふ点です。

メモを取ることは、これまで自分の癖としか思っていませんでしたがそのメモによってグループの意見がまとまることが多かったため、これは自分の強みなのだと気づき、自信につながりました。



case 02 インターン

東京大学大学院 農学生命科学研究科
応用生命化学専攻 修士2年

西東 恵梨さん

参加したインターンシップ

精密機器メーカー（営業コース）

仕事体験を通じて自分の強みや適性が見えてきた

インターンシップの選考対策はどのように進めましたか？

エントリーシートの対策をしました。就職した先輩にエントリーシートを見てもらったり、理系ナビのコンサルタントの方にアドバイスをいただいたりしながら何度も書き直しました。

また、書類選考通過後のグループディスカッションについても先輩からアドバイスをもらい、とても参考になりました。

インターンシップに参加して就職活動に役立ったことは？

私は人と接することが好きなため、理系の技術的バックグラウンドを活かしながら多くの方と接するメーカーの営業職に関心を持っていました。ですが、技術系の仕事は話を聞ける先輩社会人も多く、実際に研究をしているので、比較的イメージがつくものの、営業職は情報が少なく、自分に向くかどうか判断ができませんでした。営業の業務体験をしたことでやはり技術のバックグラウンドをもっと

生かした技術職の仕事がしたいという想いが強くなりました。

またインターンシップにおける選考対策の経験から、会社のホームページの見方を学べたのは就職活動本番でも役に立っています。製品情報や事業内容だけでなく、代表挨拶や採用担当者のメッセージには会社の思いが込められていることが多く、必ず目を通すようになりました。その会社がどういう人材を求めているのかを考えるようになりました。

これからインターンシップや就職活動を控えている理系学生にアドバイスをお願いします。

インターンシップは、興味があればどんな仕事でも体験することができ、自分の適性を見極めることができます。

また、選考過程において志望動機などを本気で考え、本当にその仕事をしたのかと自分に問うことで将来やりたいことも見えてくると思います。将来について考えるきっかけにもなるのでぜひ参加してほしいです。